

経済・金融 フラッシュ

【5月米小売売上高】 予想を下回るが、堅調さは持続

経済研究部 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

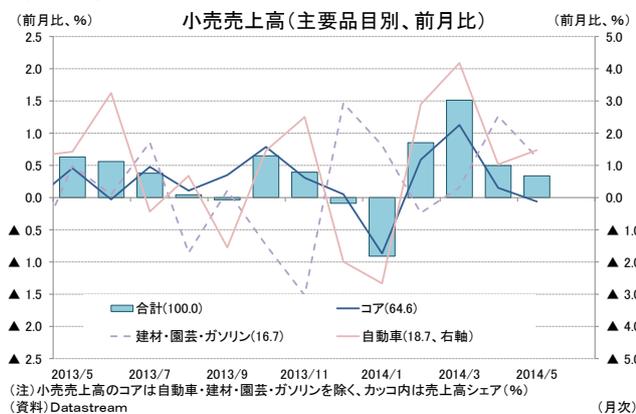
1. 結果の概要: 予想は下回ったが悲観するほどでもない

6月12日、米国商務省が5月の小売売上高を公表した¹。結果は前月比+0.3%となり、前月改定値(+0.5%)から低下、市場予想の+0.6%(Bloomberg集計の中央値)も下回った(図表1)。

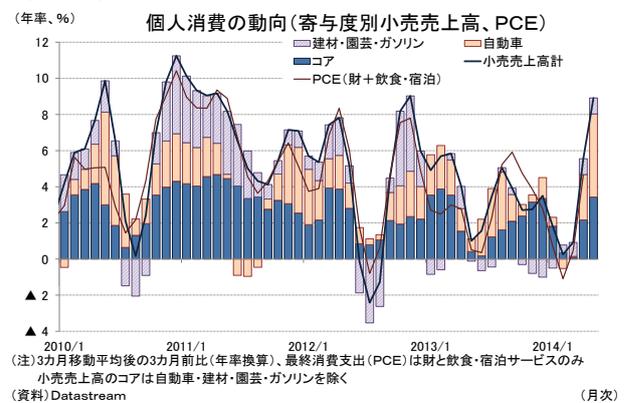
ただし、前月分の4月が前月比で+0.1%から+0.5%に上方修正されており、弱い結果とは言えない。消費の基調は強く、3カ月移動平均で見ると、前期比年率+8.9%(前月:同+5.6%)と寒波からの強い反動増も確認できる(図表2)。

なお、5月は前月に引き続き自動車関連が高い成長を維持したことが全体の伸び率を押し上げている。

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細: 自動車と医療の堅調さは変わらず

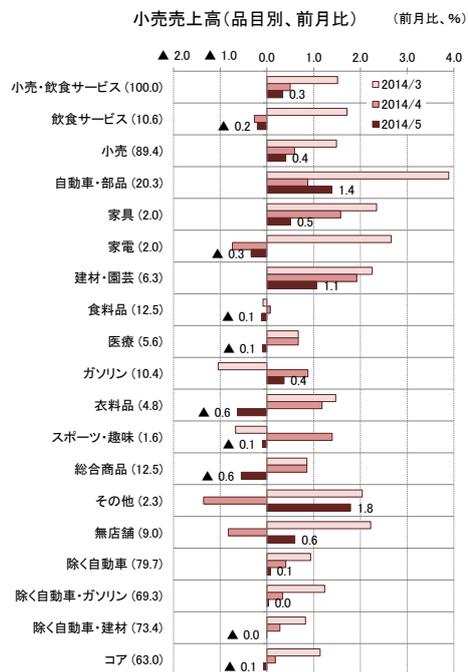
5月の小売売上高を品目別に見ると(図表3)、前月比では自動車関連が+1.4%(前月:+0.9%)となり一段と売上げを伸ばしていることが目立つ。この他、建材は+1.1%(前月:+1.9%)と成長幅は鈍化したものの伸び率は高い。その他小売の+1.8%(前月:▲1.4%)や無店舗小売の+0.6%(前月:▲0.8%)は前月のマイナス成長からプラスに転じている。ただし、自動車・建材・園芸・ガソリンを除くコア売上高は前月比▲0.1%(前月:+0.2%)と伸び悩んでいる。

基調をつかみやすい前年同月比でも(図表4)、自動車関連は+10.4%(前月:+10.4%)と2桁増が続き高い伸びを維持している。また医療の+5.2%(前月:+5.9%)も過去と比較して高い伸びが

¹ 本稿では、特に断りが無い限り季節調整済の数値を使用し、また単に小売売上高と言った場合、飲食サービスを含むものを指す。

続いていると評価できる。

(図表 3)



(図表 4)

小売売上高(品目別、前年同月比) (前年同月比、%)

	2013/7	2013/8	2013/9	2013/10	2013/11	2013/12	2014/1	2014/2	2014/3	2014/4	2014/5	シェア
小売・飲食サービス計	5.6	4.4	3.2	3.9	3.9	3.4	1.8	1.6	4.1	4.6	4.3	100.0
飲食サービス	1.9	2.1	2.0	4.1	4.6	2.6	1.4	3.1	4.6	3.7	4.1	10.6
小売	6.1	4.7	3.3	3.9	3.8	3.5	1.8	1.5	4.0	4.7	4.3	89.4
自動車・部品	12.1	11.0	6.5	10.2	10.7	6.8	3.9	5.0	10.7	10.4	10.4	20.3
家具	2.9	4.2	5.2	9.1	7.0	0.2	▲2.0	2.3	5.1	7.1	6.5	2.0
家電	▲0.5	2.4	2.5	7.2	2.0	▲4.1	▲1.4	0.0	6.3	2.0	1.3	2.0
建材・園芸	11.4	8.7	5.5	4.6	3.5	2.6	2.6	1.0	5.4	5.1	4.6	6.3
食料品	3.1	3.2	3.0	2.3	2.3	4.0	3.3	1.9	2.0	3.1	1.9	12.5
医療	2.2	2.5	5.1	5.6	4.7	4.6	3.0	4.5	5.5	5.9	5.2	5.6
ガソリン	5.8	▲1.9	▲3.4	▲6.6	▲5.3	0.0	0.3	▲5.1	▲3.5	▲0.0	0.4	10.4
衣料品	4.6	3.0	1.2	4.5	2.4	2.3	▲0.4	0.6	1.8	1.6	1.4	4.8
スポーツ・趣味	2.7	1.1	3.3	4.8	7.4	2.4	▲10.4	▲5.9	▲4.0	▲0.6	▲1.5	1.6
総合商品	0.8	0.6	0.9	0.9	1.3	0.5	▲0.4	▲0.6	0.8	2.4	0.9	12.5
その他	3.6	6.0	7.1	6.3	4.8	1.4	1.9	1.4	2.1	0.5	0.4	2.3
無店舗	10.2	8.9	7.2	7.4	5.8	9.0	4.3	5.5	7.6	6.4	7.4	9.0
除く自動車	4.2	2.9	2.4	2.5	2.3	2.7	1.3	0.8	2.5	3.2	2.8	79.7
除く自動車・ガソリン	3.9	3.7	3.4	4.1	3.5	3.1	1.4	1.8	3.5	3.7	3.2	69.3
除く自動車・建材	3.6	2.4	2.2	2.4	2.2	2.7	1.2	0.8	2.3	3.0	2.6	73.4
コア	3.3	3.2	3.2	4.0	3.6	3.1	1.3	1.9	3.3	3.6	3.0	63.0

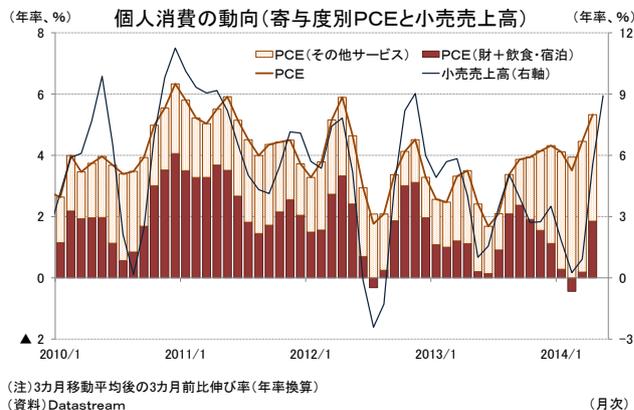
(注) 各項目ごとに網掛けが濃いほど、良好な結果(伸び率が高い)ことを表す(濃淡は過去3年分のデータから計算)。
小売売上高のコアは自動車・建材・園芸・ガソリンを除く。
(資料) Datastreamよりニッセイ基礎研究所作成

5月は前月比で見てコア売上高の伸びがマイナスに転じたが、前年同月比を見れば高い成長を維持しており、米経済への影響を懸念する必要は無いだろう。

今後、前月比の伸び鈍化が続けば、米国経済への懸念材料となり得る。ただし、その可能性は小さいと見ている。

足もとではサービスの消費が伸びており(図表5)、個人消費の傾向が財からサービスにシフトしただけという可能性もある。小売売上高が伸び悩んだとしても、サービス消費が増え、個人消費全体で見れば、堅調さが維持される期待もあり、消費鈍化を懸念するには時期尚早と言える。

(図表 5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。